



「志」大野中だより

令和5年2月1日(水)

文責:校長 瀬口 勇治

2月になりました。2月のことを、『如月(きさらぎ)』と言いますね。旧暦2月のことを意味しており、本来、新暦では3月ごろを示す言葉ですが、新暦でも2月を表す言葉として使われています。

「如月」という漢字は、中国最古の辞書といわれる『爾雅(じが)』の中にある、とある記述に由来しています。「二月を如となす」という一文です。「如」とは、従うというような意味です。ここでは、何か1つが動き出すと、それに従い他のものも次々と動き出すという意味で使われています。つまり、春という季節は万物・自然・草木などが、次々に動き出す頃であることを表しています。

日本でこの漢字が「きさらぎ」と読まれるようになったのにも、いくつかの由来があるようです。その中で最も有力といわれるのが「衣更着」です。現在の3月頃の、徐々に暖くなる時期に寒さがぶり返し、一度脱いだ衣を更に着る月だったという説です。また、1年の中で最も寒い時期であるため、衣を何枚も重ね着するという考え方もあるそうです。

当たり前のように知っていることに、ふとした疑問を持ち調べてみると、新しいことや思わぬことがわかるかもしれませんね。

「志」を探し、もつために！

1月の後半は、1年生も2年生も、将来の目標に繋がる「キャリア教育」に力を入れて、活動が行われました。

1年生では、「職業」について、考え、調べ、学ぶ場を設定し、将来の目標のきっかけ作りとなる活動となりました。特に、1月23日に実施した職業講話では、9名の外部講師【看護師、南極地域観測隊越冬調理担当者、弁護士、西日本新聞記者、西日本鉄道職員、社会人アスリート、シューズ製造業(開発職)、保育士、起業家(個人事業主)、グラフィックデザイン】の方々をお招きして、様々な仕事の実際を聞くことができました。生徒は、目を輝かせ、真剣に、興味深そうに、活動を楽しんでいました。



南極地域観測隊越冬調理担当者

また、2年生は、1月17日のキッザニア福岡での職業体験を中心に据えた職業体験学習を行い、実際に様々な職業を経験することで得られる知識や思いを感じることができました。さらには、1月27日には、春日高校と筑紫台高校から講師の先生をお招きして進路学習会を行いました。「高等学校の入試と学習・生活について」と題して具体的なお話をいただき、子ども達は先日の職業体験に続き、自分の進路について考える機会になりました。

3年生は、1月中に、私立専願入試、公立特色化選抜の入試を終え、2月3日(金)私立前期入試、2月7日(火)公立推薦入試が行われます。一人一人が自分の進路を見据え真剣に取り組む姿が見えます。3月7日(火)公立一般入試まで、大野中の3年生全員で精一杯頑張ってくれることを期待しています。

「入試は、団体戦である」という言葉があります。自分の進路先が決まっても、入試のすべてが終わるまで、緊張感を緩めることなく、全員で学習、学校生活に取り組むことが大切です。進路の実現に向けて大野中学校3年生全員で最後まで挑みましょう。

主な行事予定

- 2/3(金) 私立高校前期入試、
1,2年生学力診断テスト
- 2/7(火)、8(水) 公立高校推薦入試
- 2/11(土) 私立高校後期入試
- 2/13(月) 国立高専一般入試
- 2/16(木) 2月定期考査 1日目
- 2/17(金) 2月定期考査 2日目

大野小との合同挨拶運動の実施(1月26日)

コロナ禍で実施できていなかった合同挨拶運動を実施しました。生徒会執行部が2グループに分かれ、そのうち1グループが大野小学校へ出向いて、登校する小学生に朝の声かけをしました。

校庭で遊んでいた小学生と一緒に挨拶に参加してくれて、登校する小学生も元気よく立ち止まって挨拶を返してくれました。

次年度は、もっと小学生と連携した取組を進めていきたいと考えています。

